



リュウキュウムカシキョン
Dicrocerus sp.
体長 83cm、肩高 39cm

シカ科のキョンの仲間分類される絶滅種で、現生種に比べると、形質的に古い特徴が見られることがわかっています。

非常に大きな犬歯を持ち、角の形状としては、前後に大きく分かれた二分岐角の後方がS字状に湾曲しているのが大きな特徴です。

沖縄島、伊江島、伊計島、久米島から見つかっており、更新世初期、中国大陸と琉球列島が接続していた時代に移動してきた、森林～草原生のシカであったと考えられます。

化石

第8回

琉球列島から見つかった最初のホ乳類化石は、今から81年前の1926年、当時東北大学教授であった松本彦七郎氏によって報告された、伊江島から見つかったシカ化石のものでした。その後1960年代以降になってケナガネズミやイノシシ、ヒトなどのホ乳類の他に、ヤンバルクイナ、カメ類、カエル類など次々と脊椎動物化石が発見され、現在では108カ所以上から報告がなされています。

琉球列島
美ら島
まるごと
ミュージアム



リュウキュウジカ
Cervus astylodon
体長 97cm、肩高 49cm

琉球列島からは、絶滅種であるリュウキュウジカの化石が最も多く発見されており、同時代のシカ化石としては世界有数の産出地です。宮古諸島以外のほぼ全域から見つかっており、更新世初期、中国大陸と琉球列島が接続していた時代に移動してきた、森林生のシカであったと考えられます。

近年の研究により、島しょ化*によって小型化したことがわかってきました。

*小さな島の中では、生息域や餌の量などかなり制限されてしまうため、生物は生存競争に有利になるように、他の地域で見られる同じ種類よりも巨大化あるいは小型化するという説。

県立博物館・美術館
開館記念展開催中!



<http://www.museums.pref.okinawa.jp/>